



めとてラボ 2022

ー活動レポートー

めとてから生まれる自然な文化。

それらを耕す

「ホーム(文化の創造拠点)」をつくるラボ

コンセプトは、

「わたしを起点に、新たな関わりの回路と表現を生み出す」こと。

異なる身体感覚、思考を持つ人と人が出会い、

それぞれの表現を実験・実践できる場所の在り方を模索しています。



めとてラボとは

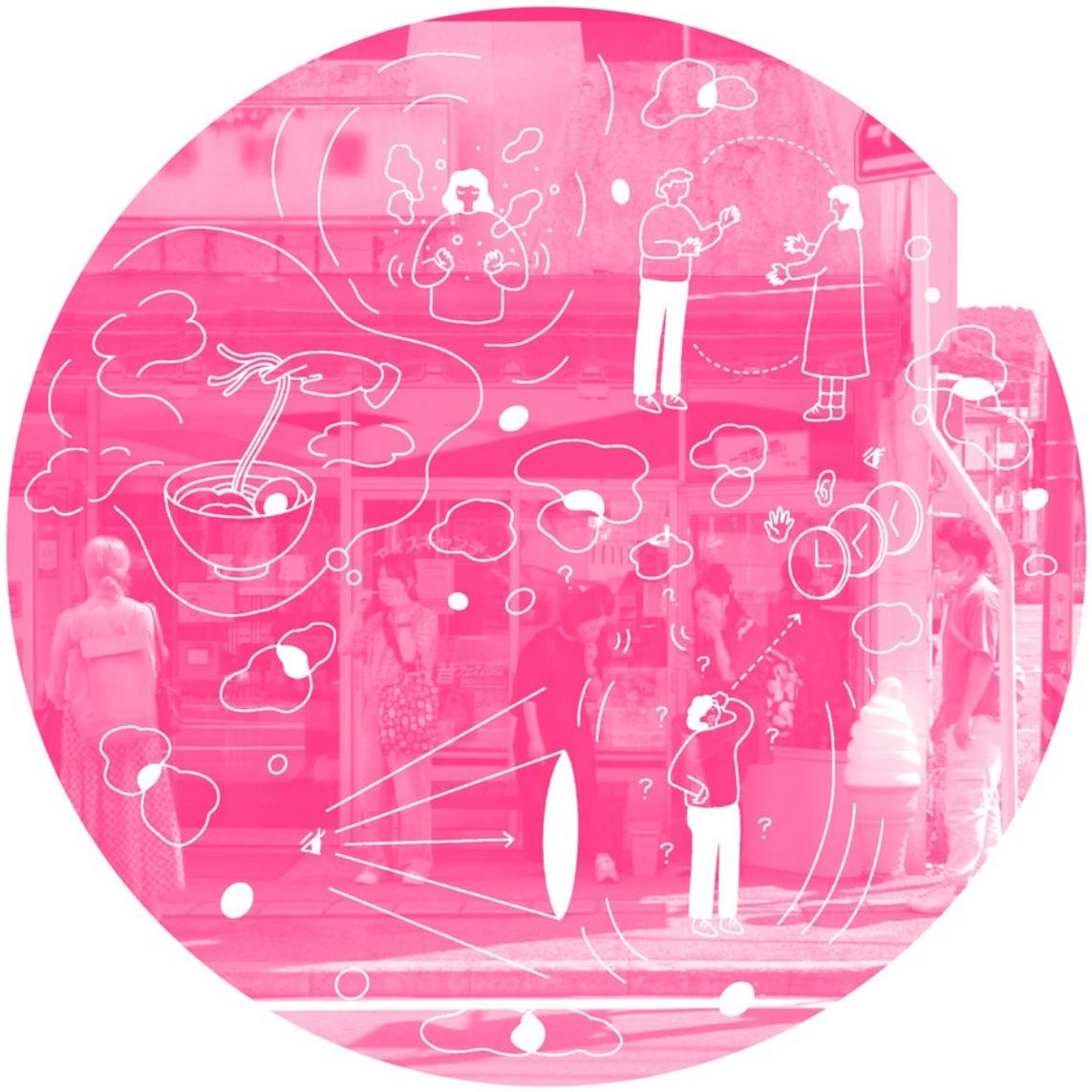


手話で喋るときの頭のなかはどうなっている？
色のイメージを手であらわすってどういうこと？
視覚的な言語の文法や思考とは？
からだを再発見できる環境とは？

こうした素朴な疑問やからだの感覚から生まれる表現を出発点に、
「め」と「て」の歴史や暮らし、
遊びや建築洋式など、多角的な視点で「ある」をさがしていく。



めとての頭のなかとからだ



ホーム /

安心できること / 言語やからだのかたちを探っていく /

心地よいを耕す / 空気を揺らす /

ぽこぽことともにつくる思考の広がり / 記憶の言語 /

からだに染み込む景色 / ソウゾウ(想像と創造)の言語

消えてしまうかもしれない言語である手話、

今までの生活文化や歴史をあたらしく残しながら耕す方法、

「ホーム」があることで積み重なっていくもの、

感覚の異なるもの同士の出会い、創発、揺れ。

「ある」をみつけていった先には、

未知なる世界の広がりがある。

生活文化のこと



自然な文化っていったいなんだと思う？

— あ、知ってる気がする。

メンバーと喋りながらリサーチへ。

向かったのは、福島のとある先生のご自宅。

そこでは、日々さまざまな生徒や友人、知人が集まり、
空気を揺らして会話をする。いつでも話せる、安心してゆだねられる、
会話のなかで耕されていくものたち。それはまた、人のなかに染み込んで、
誰かに伝わっていく。美術館や集落のなかのアートセンター、
高校生たちが通うカフェ、形は違えど近いところの実践にふれる。
なるほど、そんな方法があるんだ。



2022.6 福島リサーチ



この不思議な場所は何だろう？

1階から3階までが吹き抜けになっていて、
どの場所からお互いの目を見て会話ができたり、
部屋の電気をチカチカさせて人を呼んだりできる。

これはろう者の言語である手話からなる会話の空間と
身体感覚をもとにした場づくりのことで、デフスペースと呼ぶ。
アメリカで生まれた考え方だけど、実は日本にもたくさんある。
どんなデフスペースがあるのか、わたしたちは探している。



デフスペースリサーチ



居心地の良い空間ってなんだろう？

わたしたちは聴覚・ろう重複センター「つくし」が立ち上げた、
放課後等デイサービス「茜」とグループホームを訪ねた。
ここは、まさにデフスペースがある場所で、ろう者が過ごしやすい
だけでなく、その場所に集まるどんな人も心地よく感じる空間だった。
デフスペースは建物をつくるだけが目的ではなく、
地域とのつながりもつくることができる。
そんなことを実感できたりサーチだった。



2022.11 愛知リサーチ



ろう者の生活ってどうなっているんだろう？

今も昔もおんなじ手話？それとも違う？

おんなじ暮らし方？それとも違う？

ろう者の生活はどうやって知るんだろう？

きっとそれは、本だけではわからない。

でも動画や写真でわかることもある。

わたしたちは昔のろう者が記録されている媒体を探し、

時代や世代をこえて、今との違いや共通点を

みんなで対話しながら見つけていく。

そしてそれをまた次の世代と対話し、未来へつなげていく。



アーカイブ・プロジェクト



「つなぐラボ」は
感覚の異なる他者との出会い方や
つたえあいの工夫について考えていくラボラトリー。

目の前の誰かの頭のなかをのぞいて見るができないように、
つたえあうことには、常に「わからなさ」が横たわっている。

聴覚と視覚、起点となる感覚が異なる言語の間で、
わたしたちはどうやってつたえあい、関係性を紡ぐことができるのだろう。

そもそも全く異なる人生や経験、
身体を持つ他者同士がつたえあうとはどういうことなのだろう。

コミュニケーションの在り方をほぐしながら、
こうした問いを探求している。



つなぐラボ



あなたのなかにしかないものを、
そっと世界においてみたら、
それはさまざまな人のなかに灯り、
思いがけない創発が生まれゆくかもしれない。

わたしを見つける、
その先に見たことのない景色がある。

めとてラボ 2022

— 活動レポート —

執筆：大高有紀子、嘉原妙、和田夏実

アートディレクション&デザイン：一森加奈子

イラスト：宮川幸

制作：めとてラボ プロジェクトメンバー

(岩泉穂、大高有紀子、南雲麻衣、根本和徳、牧原依里、嘉原妙、和田夏実)

編集サポート：木村和博

発行日：2023年3月23日

発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階

TEL：03-6256-8435 FAX：03-6256-8829

<https://www.artscouncil-tokyo.jp>

印刷・製本：株式会社ショウエイ

ISBN 978-4-909894 C0070

「めとてラボ」は

2022年4月より東京アートポイント計画の事業として
実施しています。視覚言語（日本手話）で話そう者・難聴者・
CODA（ろう者の親を持つ聴者）が主体となり、一人ひとりの感覚や言語
を起点とした創発の場（ホーム）をつくることを目指したラボラトリーです。

東京アートポイント計画とは
社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」を
つくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、
地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトを
とおして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が
生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。

主催：東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

一般社団法人ooo

ARTS COUNCIL TOKYO

